

大野城市立中学校における制服のあり方について
(論点整理)

令和4年9月

大野城市立中学校制服検討委員会
(事務局：大野城市教育委員会教育支援課)

(余 白)

大野城市立中学校における制服のあり方について（論点整理）

1 はじめに

近年、保護者の経済的負担、生徒の多様性、制服の機能性への対応から、中学校における制服の見直しが全国的に注目されている。国の動きとしては、平成 29 年 11 月 29 日に公正取引委員会から「公立中学校における制服の取引実態に関する調査」が報告されている。この報告では、「制服の販売価格は、10 年前と比べ上昇傾向」であることを踏まえ、制服の指定・仕様、学校と制服販売業者との関係、制服の販売価格等に関して、学校に対して期待する取組が示されている。

文部科学省からは、平成 27 年 4 月 30 日に「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」の通知において、性同一性障害に係る児童生徒に対する学校における支援の事例として「自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める」ことが挙げられている。さらに、平成 30 年 3 月 19 日の「学校における通学用服等の学用品等の適正な取扱いについて」の通知では、保護者等の経済的負担が過重なものにならないよう留意することが示されている。この中で、制服の選定や見直しに当たっては、保護者等学校関係者からの意見を聴取した上で決定することが望ましいと記されている。

一方、気象庁のデータによれば、2021 年の日本の平均気温の基準値（1991～2020 年の 30 年平均値）からの偏差は+0.61℃で、1898 年の統計開始以降、3 番目に高い値となっている。また、日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には 100 年あたり 1.28℃の割合で上昇していることが示されており、いわゆる地球温暖化が進んでいる。特に、近年は猛暑日と呼ばれる日が増えており、従来の制服（夏服）では気候に対応できていない実態があると言える。

2 大野城市の現状

○市内 5 中学校（大野中学校、大野東中学校、大和中学校、平野中学校、御陵中学校）のうち、平野中学校のみ、男子はブレザー・スラックス、女子はブレザー・スカートで、他の 4 中学校については、全て男子は学ラン、女子はセーラー服になっている。

○制服の価格は学校ごとに違っている。

○LGBT 対応のための第三の制服（他市町の制服）の着用や、暑さに対応するための体操服での登校等を各中学校長の判断により、学校ごとに認めている。

3 各種アンケート調査結果

(1) 学校運営協議会アンケート結果

令和3年度末に市内の学校運営協議会へアンケートが実施されている。

- 「あなたが所属（関係）している、または進学先の中学校の制服は見直した方が良いと思いますか？」について、「見直すべき・見直した方が良い」の回答は、小学校 50%、中学校 59%、「見直さない方が良い・見直さなくて良い」の回答は、小学校 9%、中学校 0%、「学校の意向に合わせる」の回答は小学校 41%、中学校 41%であった。
- 「もし制服を見直すなら、大野城市として統一した制服が良いですか？それとも各学校独自に検討した方が良いですか？」について、「統一すべき・統一した方が良い」の回答は、小学校 24%、中学校 3%、「学校独自の方が良い・学校独自で良い」の回答は、小学校 43%、中学校 50%、「学校の意向に合わせる」の回答は小学校 33%、中学校 47%であった。

(2) 児童生徒・保護者アンケート結果

令和4年6月30日から7月7日にかけて、小学5・6年生及び中学1～3年生、全学年の保護者、教職員を対象に中学校制服に関するアンケートを実施した。特徴的な結果を以下に示す。

- 「Q1 現在通っている（通う予定の）中学校の制服を見直す必要があると思うか？」について、見直す必要があるとの回答は、小学生全体：53%、中学生全体：63%、保護者全体：74%、教職員全体：75%であった。学校別に見れば、児童生徒対象では、「見直す必要がある」の回答よりも「見直す必要がない」の回答が上回った学校は、大野小学校（14%）、大城小学校（14%）、御笠の森小学校（22%）、御陵中学校（12%）の4校であった。保護者については、全ての学校で「見直す必要がある」の回答が「見直す必要がない」の回答を上回った。
- 「Q2 (Q1で「制服を見直す必要がある」と回答した人が対象) 見直す場合、全面的に見直した方が良いか、一部を見直した方が良いか」について、全面的に見直す必要があるとの回答は、小学生全体：68%、中学生全体：76%、保護者全体：68%、教職員全体：52%であった。学校別に見れば、中学生の保護者のみが「一部見直し」の回答が「全面見直し」の回答を10%上回った。
- 「Q3 (Q2で「制服を全面的に見直す必要がある」と回答した人が対象) 見直した方が良いと思う理由」について、小学生全体、中学生全体、保護者全体は「暑さ・寒さ」・「デザイン」・「動きやすさ」が上位3位を占め、教職員全体では「男女別」・「暑さ・寒さ」・「動きやすさ」であった。
- 「Q4 (Q1で「制服を見直す必要なし」と回答した人が対象) 見直す必要がない理由」について、最も回答が多かった「困っていない」の割合は、小学生全体（79%）、中学生全体（83%）、保護者全体（74%）、教職員全体（79%）であった。

- 「Q5 自分の好みで組み合わせを選べることは良いことだと思うか」についての肯定的な回答は、小学生全体（93%）、中学生全体（93%）、保護者全体（90%）、教職員全体（95%）であった。
- 「Q6（Q2で「制服を全面的に見直す必要がある」と回答した人が対象）見直す場合、デザインは「学校ごとのデザイン」と「市統一デザイン」のどちらが良いか」について、全ての学校で「学校ごとのデザイン」が「市統一デザイン」を上回った。市全体では、小学生全体（82%）、中学生全体（89%）、保護者全体（57%）、教職員全体（55%）であった。
- 「Q7 制服に求めるもの」についての上位3位は、小学生全体：「デザイン」・「耐久性」・「着心地」、中学生全体：「デザイン」・「着心地」・「機能性」、保護者全体：「着心地」・「価格」・「耐久性」、教職員全体：「着心地」・「耐久性」・「機能性」であった。
- アンケート結果から、全体傾向として、制服の見直しについては「必要」と考えている意見が多く、制服の見直す点は、「暑さ・寒さ」「デザイン」「多様性」に対する意見が多い。制服のデザインは、ボトムスの選択ができるように、スラックス・スカートの設定が可能なブレザータイプを望む意見が多い。
- 保護者の意見の多くに、リユースのしやすさの重視や、「リユース会」を公的にして欲しいという要望もあった。

4 制服検討委員会における議論

大野城市教育委員会では、令和4年3月29日に大野城市立中学校制服検討委員会設置要綱を定め、令和4年4月1日から施行された。これを受けて、令和4年7月11日に第1回大野城市立中学校制服検討委員会が開かれた。また、令和4年8月30日に第2回委員会が開かれた。これまでの議論の経過と合意した内容について、以下に示す。

（1）制服の必要性

- 思春期にあたる中学生なので、私服だとたくさん買わないといけなくなる。また、いじめの問題や格差の問題にもつながりかねないので、制服の方が望ましい。
- 制服を着ることで、きちんとして行かないといけないという意識をもつ。私服では格差が出てしまうこともあるのではないか。
- めったに着ない制服を買わされるから、とても高いのにもったいないと感じる。Tシャツ登校は見た感じがだらしく見える。制服を着て登校する方が締まって見えるので良いのではないか。
- LGBT 当事者として制服か私服かという視点で考えると、当事者が着たい物を着れるかという点、制服でも私服でもあまり変わらない。それよりは、制服が選択制になり、ルー

ルとして決められている中でスラックスやスカートを選べる方が選択としてはしやすい。制服がいるかいないかというよりは、ソフト面の啓発の方が大事ではないか。

- 小学生であっても、制服に関してまずは関心をもたせたい。中学生は制服の良さや課題を自分たちなりに理解することが大事ではないか。
- 中学生では、規範意識を身につけていく中で、学校にはルールがある、社会にもルールとマナーとモラルがある。それを制服の着用の仕方などで、身だしなみ指導という形で身につけさせていくことは、13歳から15歳の間で必要ではないかと捉えている。
- 私服だと経済的格差の問題が表出する可能性がある。制服は集団への帰属意識を高める。また、中学生は社会のルール・マナー・モラルなど心の持ち方を制服着用指導により学ぶ大事な時期とも捉えられる。制服は着るだけではなく、「学びの道具」でもあるという考え方ができる。まとめると、やはり制服は必要であるが、一定のルールの中で生徒自身が選択できるような柔軟性も必要ではないか。

(2) 制服を変える必要があるか

- 制服の選択制は取り入れた方が良い。また、価格についても考えた方が良い。
- 多様性の観点からも、選択肢を広げて導入できたら良い。制服は暑い、通気性が悪いなどの問題があるのではないか。また、夏服・冬服はあるが合服がないので、合服をうまく活用し、季節に応じて着ることができるようにしたら良いのではないか。
- 今の小学生の中には、水面下でトランスジェンダーの子がかなりいるのではないかという話を聞いている。今、私たちの目に触れてはいないけれども、そういう観点から考えると、やはり選べた方が良い。
- 変える必要があるかという点でいうと、現在の社会情勢や気候への対応を考えると、間違いなく「変えないといけない」ということで意見は一致した。

(3) 制服を変えるなら、変えるポイントは何か

第1回会議での議論と市民向けワークショップで出された意見を整理して、以下のような視点でまとめた。

- 「機能性」に関する意見・要望
 - ・夏は涼しく、冬は暖かいもの
 - ・温度調節がしやすいもの
 - ・上から羽織れるもの
 - ・通気性が良いもの
 - ・透けないもの
 - ・汚れが目立たないもの
 - ・動きやすいもの

- ・伸縮性があるもの
- ・家で洗濯ができるもの
- ・ノーアイロンのもの
- ・型崩れしないもの
- ・ポケットが多いもの

○「経済性」に関する意見・要望

- ・価格が安価な方がよい
- ・洗い替えのシャツを気軽に複数枚買えたり，身長が伸びた時に買い換えたりできる価格設定が良い
- ・制服専門店ではか買えないのではなく，シャツなどはスーパーや近くの衣料品店で買えるものが良い
- ・制服全体の価格を抑えて欲しい
- ・リユースしやすいもの，リユースしやすいしくみを整える

○「安全性」に関する意見・要望

- ・学校名がはっきりわからないようにして欲しい
- ・ネームししゅうをやめて欲しい
- ・校章や名札をプレートにして，学外では裏返したり外したりできるようにして欲しい
- ・肌に合わない子どもにも配慮できる素材にして欲しい
- ・感覚過敏にも対応できる素材にして欲しい

○「多様性」に関する意見・要望

- ・男女問わず着用できるデザインのもの
- ・男女で制服を分けない方がよい
- ・スカート，スラックス，色，形などを自分で選びたい
- ・選択肢を複数与えて欲しい
- ・女子もスラックスを履きたい
- ・LGBT の子が苦しまないでいように選択制にして欲しい

○「デザイン」に関する意見・要望

- ・着脱しやすいデザイン
- ・かわいいのがいい
- ・かわいい色にして欲しい
- ・スカートが長すぎる（掃除のときに邪魔になる）

- ・シャツが透けるので色を白でなく別の色にするか、透けない素材のものが良い
- ・成長に合わせて買い換えられるデザイン
- ・組み合わせ、デザインを選択制に

○「市内統一」・「学校独自」に関する意見

- ・全校（5校）統一した方が良い
- ・市内5校を統一すると、コストダウンにつながるのではないか
- ・各学校独自の制服が良い

○「その他」意見・要望

- ・子どもの意見，個性の尊重
- ・制服を着たくても着ることができない人がある
- ・自分の意思で選べる環境が必要
- ・制服の良さや課題を子どもたちなりに理解する必要性
- ・制服の着用を通じて規範意識を身につけさせる時期である
- ・制服はフォーマルな場でも着用できるもの（学校での儀式的行事、学外での受験・冠婚葬祭など）
- ・体操服・ジャージなどの学年カラーを撤廃してほしい
- ・通学かばん・バッグも見直してほしい。リュック型への希望多数

（４）制服を「部分的に見直す」か「全面的に見直す」か

（３）の各項目について今後の議論を収束していくために、本委員会で制服の見直しを部分的にするか、全面的にするかを議論した内容について、以下に示す。

- 制服を自由に選択できるということを考えると、スラックス又はスカートの形を含めて検討していく必要があると思うので、全ての中学校で全面的に変更する方が良い。
- 大野城市全体として1回リセットして、きちんと見直しをして欲しい。
- 平野中の保護者と生徒の意識が違う（保護者は部分的、生徒は全面的な見直しが多い）というのは、多分、デザインのなところで、もっとかわいいのがいいという意見だろうと思われる。見直しの機会を持てるということで全面的に見直してはどうか。
- 平野中の保護者が一部見直しの方が多くなったというのは、多分金銭的な理由だと思うが、お下がりが出来なくなると考えたからではないか。新制服移行に猶予期間を設けて、どちらの制服を着ても良いことを一つの選択肢の中に入れた方が良いのではないか。
- これまでの意見を踏まえて、本委員会では「全面的に見直す」方向であると決定した。

(5) 制服の価格と機能性について

- 今現在の価格帯に対して、機能性はよくないし、クリーニングに出さないといけない。成長に合わせて買いやすい値段にすると良い。
- 延岡市は男女兼用で、性別に関係なくお下がりができると聞いている。形は市統一だが、リボンやネクタイの色を学校ごとに変えている。価格もそんなに高くない。
- 性別により体形の違いがあり、男性用の型・女性用の型というのは必要になってくると思う。その上で、好きなものを選んで良いとすれば、今よりも着やすくなるのではないか。
- ブレザーというよりも、カーディガンでもいいのではないかと思っている。冬は防寒着を着ても良いとするならば、カーディガンの方がデザイン的にも良い。
- 価格を抑えて機能性を高めると保護者としては買いやすい。困窮世帯のことなどを考えると、まだリユースのしくみが作れていないから、安価の方が買い替えしやすくて良い。
- いずれの価格になったとしても、リユースとか制服譲渡会などを仕組み化していく必要がある。みんな新しく買うよりも、SDGsの視点で今あるものを着ることが環境にも優しいという発想である。そういう活動が大野城市内の学校でもできると良い。ただ、新制服の導入当初はお下がりがないので、最初はみんな買わないといけない。リユースの仕組みは中長期的な取り組みになる。
- 暑さ・寒さの意見が、市民ワークショップの中でもたくさん出されていた。中学生が言っていたのは、制服に求めるものの中で暑さ・寒さ対策は大事である。意外だったのは、夏場の冷房で寒いということである。半袖のポロシャツやシャツだけだったら寒くて羽織りたいという意見だった。
- 冬は下に防寒用肌着などを着込めるので、防寒対策よりも伸縮性があるとか、ストレッチが効いていて動きやすいとか、通気性があるということの方が大事ではないか。
- 冬に寒いという意見が多かったのは、セーラー服で胸元が空いているので、中に着込むことができず、寒い空気が入ってくるということであった。ブレザーであれば、上までボタンで留めることが出来て、中に着込むこともできるので、防寒対策にはなるのではないか。
- 半年間1本のズボンを履き続けるとなると、あっという間にくたびれてしまうので、2〜3本買って、交互に着るといふ風にしないと、かなり汚れるし、ヨレヨレになってしまう。家庭でも洗えるというのは経済的にも重要ではないか。
- 制服は、販売業者や製造業者が1つではないので、仕様書を決めれば、それを基に業者が何パターンか制服を作り、それに基づき値段差も生じるものなので、その中で、出来るだけ安価なものが良いのか、耐久性に優れているものが良いのかは保護者の選択になるのではないか。

(6) 今後の議論について

- ワークショップでは、スーパーや近くの衣料品店で買えるものが良いという意見がある。例えば、ブレザーやスラックスは制服業者から購入し、シャツやポロシャツは量販店で買ってもいいということも選択肢に入れられたら良い。
- 例えば、上着やスラックスは市内である程度の統一感を決めて、中に着るシャツ、カーディガンなどはいくつか選べる。そこで学校の独自性は出せるし、全体としては統一感が出せるのではないか。学校ごとに独自デザインのワッペンをつけるという考えもある。今後の委員会で、市全体の統一性と学校の独自性について議論を深めたい。

5 おわりに

- 本論点整理については、本市の各学校の学校運営協議会とも情報共有したい。その後、第4回（10月）委員会で報告書の素案について議論し、第5回（11月）委員会で最終報告書を取りまとめる予定である。

大野城市立中学校制服検討委員会

会 長 伊藤 克治（福岡教育大学教育学部理科教育研究ユニット教授）

副会長 日永田貞代（つつじヶ丘区長）

氏名	所属	備考
イトウ カツジ 伊藤 克治	福岡教育大学教育学部 理科教育研究ユニット教授	学識経験者
ヒエイダ サダヨ 日永田 貞代	つつじヶ丘区長	区長代表
クサカベ タツヤ 日下部 達矢	平野中学校長	中学校校長代表
ヒラノ コウジ 平野 孝二	大野小学校長	小学校校長代表
マツタ アサミ 松田 愛紗実	大城小学校 PTA	小学校及び中学校 児童生徒の保護者代表
コガ ヒロキ 古賀 寛紀	御陵中学校 PTA	
ミウラ ノブヒサ 三浦 暢久	NPO 法人カラフルチェンジラボ 代表理事	教育長が必要と認める者

大野城市立中学校における制服のあり方について（論点整理）

令和4年9月

大野城市立中学校制服検討委員会
（事務局）大野城市教育委員会 教育支援課
